

リフト積み込み時、路面損傷

事故事例KYT資料 Vol.1(4月)

2016年4月15日
発行：コマツ物産株式会社
地域物流部・安全推進課

リフト積み込み時 路面損傷事故

- 1.発生日時 2016年1月16日(土) PM3時50分頃
- 2.発生日場 株式会社〇〇〇〇 〇〇センター事業所
(東京都〇〇区)
- 3.事故当事者 所属：〇〇運送株式会社 職種：運転手
年齢：36歳 勤続年数：4年4ヶ月 経験年数：4年4ヶ月
免許取得・技能検定取得：フォークリフト 9年3ヶ月経過、車上機 2ヶ月経過
社員区分：■正社員 ■契約社員 ■派遣社員 ■その他()
所属運輸会社所属：フォークリフト運転免許、車上機運転免許取得、ショベルローダー等
運転、ローラー(前回の)、車上機運転機械(製鉄等)運転、大型免許、大型特種免許
- 4.事故概要 作業名：株式会社〇〇〇〇 〇〇センター事業所から、
株式会社〇〇〇〇 F.G.S.O.T-18-A70000X(ペールクランプ付)を引取り
コマツリフト(輸)〇〇支店へ搬入する作業

作業・安全標準書の名称：〇〇 〇〇 〇〇
1月16日 PM3:40頃 株式会社〇〇〇〇 〇〇センター事業所へ到着。
(土) PM3:50頃 引取り車輦の積み込み作業開始。(ウィンチで牽引し積み込み)
PM3:50頃 スリングベルトを牽引ピンに掛けウィンチのフックをつなげて牽引作業開始。
スリングベルトが牽引ピンから外れ、フォークリフトが滑走。ドライバーは
ブレーキを踏んだがタイヤがロックしてしまい下まで滑走。ペールクランプ
先端で舗装部分および門扉レールを滑り、損傷させた。
※人が入らず、製品損傷無し



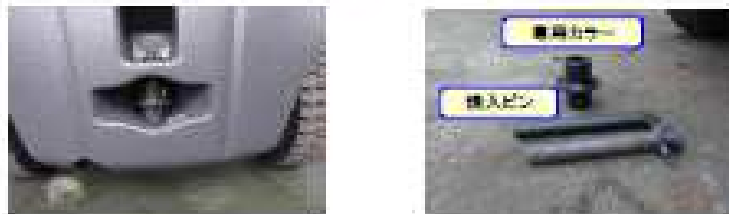
事故の原因はどこにありますか？

- ① リフトが積み場に届く前で、牽引ピンが上がってしまいその状態で引っ張られ曲がってしまい変形してしまった。
- ② マストを上げないまま(車輦は上げていたが)車輦を移動中に下げた積込んだ為ペールクランプ先端が門扉レールと接触を損傷させた。
- ③ 元々曲がった牽引ピンを使用して、かかりが強かった為外れた。
- ④ 純正牽引ピンは曲がりやすく強度も高い為、本体に当たる部分も強く曲がり易い。

どのような対策が考えられますか？

- ① 牽引ピンは上げて抜ける可能性があるため、なるべくピンの上部にスリングやワイヤーを掛け、落ちてこないようにスリングの下の線間にウェスなど巻く。
- ② マストは最後まで下げない。
- ③ 滑り落ちることを想定して、積み込みの場所を変える。
- ④ 牽引ピンの曲がりを確認し、曲がったピンは使用しない。
- ⑤ 牽引ピンの内にワイヤーを通して引っ張り、牽引ピンは使用しない。
- ⑥ 純正のスリングベルトを使用し、ピンが上がらないようにする。
- ⑦ 純正ピンではなく換入れの強度が落ちたピンを使用し、強度も215mmに変更する。
- ⑧ 牽引ピンに専用カラーを装着して、スリングが上がってもピンが上がらない構造にする。

換入れピンと専用カラー



コマツ物産より
ペールクランプ(古越など)換むアタッチメントの大きさも特別大きく、
重量もかなり重くウィンチに負荷がかなり掛かっていました。
牽引ピンは下の穴が狭くてすり上がりが有ると抜けてしまいます。
すり上がりを防ぐ為、純正のナイロンスリングを使用したり、
専用カラーを使用したり各社で対策しています。